

◆ 昨年五月に新型コロナの位置付けは感染症法

の五類に移行し、日常生活や経済活動は正常化に向けて緩やかに回復しておりますが、農畜産物の消費は依然として低迷しており、加えて国際紛争や円安により生産資材価格は高止まりのまま、農業経営は厳しい状況から脱することができていません。さらに昨

年の夏は記録的な猛暑により作物の生育は早まったものの、収量・品質に悪影響がありました。モニターの方々からも猛暑に影響された各地域の状況が報告されました。しかし、放牧と乳製品加工で所得低下を軽減させている取組

みや、適期防除や遮熱対策で平年並みの収量を確保した、継続的な土づくりにより被害を抑制したなど、高温多湿という想定を超える気候変動に対応して営農されている話を聞くと、こちらの方が元気づけられました。

◆ 北広島市のカントリーサインはクラーク博士のイラストですが、これは札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が教え子と別れる時に、北広島市にある旧島松駅通所で「Boys, be ambitious.」(青年よ大志を抱け)の名言を残したことに由来します。クラーク像のある北大や羊ヶ丘に比べるとほとんど

知られておりませんが、史跡内にはクラーク記念碑があります。その隣に「寒地稲作発祥の地」の石碑があります。旧駅通所の運営を任されていた中山久蔵は寒地稲作の父としての顔を合わせ持ちます。明治のはじめ、道南を除き稲作は不可能と考えられていま

した。しかし寒さに強い品種を改良し水温を一定に保つ管理など多くの苦労を重ね寒地稲作を成功させました。過酷な環境の中で米作りにチャレンジした訳で、寒地稲作という大志を抱き成功させた中山久蔵はクラーク博士の名言を実践したと云えます。

(石田健一)

### 「地域と農業」第132号

発行：一般社団法人 北海道地域農業研究所  
〒060-0806  
札幌市北区北6条西1丁目4番地2  
ファーストプラザビル7階  
☎ 011 (757) 0022  
Fax 011 (757) 3111  
HP : <https://www.chiikinouken.or.jp>  
E-mail : [office47@chiikinouken.or.jp](mailto:office47@chiikinouken.or.jp)